

社会とのコミュニケーション

東京エレクトロングループは、ステークホルダーの皆様との対話を大切にし、コミュニケーションを通して成長していきます。

コミュニケーションについての考え方

当社グループは、日頃からステークホルダーの皆様との対話を大切にし、コミュニケーションを積極的に推進しています。環境・健康・安全への取り組みを推進するためには、事業活動にかかわるすべての皆様とできる限り情報を共有し、そのなかからフィードバックを得る相互作用が不可欠と考えています。

また、当社グループでは、2000年から環境報告書を発行し、ホームページでも環境・健康・安全に関する情報開示に努めています。今後も様々な方法により、情報開示やステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的に展開していきます。



▲インターネットHP

環境・社会報告書2006 ▶



EHSタイムズとイントラネットによる情報共有

隔月で発行している環境・健康・安全の内容に特化した社内報「EHSタイムズ」では、環境・健康・安全に関するグループ内の関連各委員会の審議内容や、グループ各社・事業所の取り組みなどをわかりやすく紹介しています。各グループ会社や事業所でも同様の社内報を作成しており、従業員の意識の向上と情報の共有に役立てています。

イントラネットでは、グループ内の情報開示や情報交換をより迅速にする取り組みを行っています。こうした活動は、株主・投資家の皆様に向けた冊子、アニュアルレポートでも紹介しています。



▲インターネットHP

アニュアルレポート2007 ▶



地域社会とのコミュニケーション

当社グループでは地域社会との共生を目指しており、TELバリューのなかでも「地域社会から高く評価される会社であるよう心がけます」と掲げています。各事業所では、地元行政からの依頼で、産業人材育成を目的とした小・中・高校への講師派遣や、地元の学校の体験学習や工場見学の受け入れ、地元地域の行事（お祭りなど）への協賛・寄付、献血活動への協力などを積極的に行っています。



▲工場見学会の様相

また、製造系の事業所では事業所内での業務を委託している協力企業を対象にした「協力企業EHS連絡協議会」を開催し、当社グループの環境・安全活動についてコミュニケーションを密に取ることで、相互発展を目指しています。

山梨地区における地域社会とのコミュニケーション事例として、夏休み期間に工場見学を兼ねた職場体験学習を実施しています。2006年度は、おもに当社グループ社員の子供たち30名が参加しました。また、地域の中高生を中心とした工場見学も年間を通じて受け入れています。2006年度は8校の工場見学があり、約350名の学生が見学をしました。さらに、2007年3月には、地域住民の皆様をお招きする工場見学会を実施し、子供たちを含む70名の方々の参加がありました。

実施後のアンケートでは「これまで事業所内を見る機会がなく、工場での活動、取り組みを知らずにいた。よく理解ができた。」「機会があれば、また見学に参加したい。」といった感想が寄せられました。このような活動を通じて、当社グループは地域との共生を図っていきたく考えています。



工場見学会の様相 ▶

社会貢献に対する考え方

東京エレクトロングループは、「社会に対し、常に規律を守り、協力的でありたい」「社会の健全な発展のために協調することが我々の義務である」という考えのもと、行政や地域社会との信頼関係を築きながら、国内はもちろん、海外においても様々な社会貢献活動を進めています。

今後も活動をさらに拡充し、社会とともに歩んでいきます。

東京エレクトロン葦崎文化ホールの命名

東京エレクトロンATは、葦崎市文化ホールの命名権を取得し、2006年4月1日、当文化ホールの名称が「東京エレクトロン葦崎文化ホール」となりました。地域に根ざした企業を目指す立場から、「文化ホールを地域文化の創造と発展に生か

したい」という葦崎市の趣旨に賛同するとともに、公共施設の維持管理に協力することが地域社会への貢献につながると考えました。



◀東京エレクトロン
葦崎文化ホール

科学や技術に親しみを感じていただけるイベントの開催や、子供たちに夢を与える活動を積極的に提案し、葦崎市の文化の創造と発展に寄与したいと考えています。

宮城事業所でのゴミゼロ(5月30日)活動

当社グループ各社・各地の事業所では、地域貢献として近隣の清掃や草刈りなどを行っています。宮城事業所では、5月30日のゴミゼロの日に、事業所周辺の道路清掃を社員25名で行いました。この清掃活動と同時に、道路に設置されている反射ボールの清掃も行い、交通安全にも寄与しました。参加者からは「思ったよりごみの量が多かった。」「車からのポイ捨てが非常に多いことがわかった。」「ゴミ拾いを通じて地域に少しでも貢献できて良かった。」などの感想が寄せられました。



清掃活動の実施模様 ▶

TOPICS

東京エレクトロン九州にて水源涵養植樹を実施

東京エレクトロン九州では、昨年に引き続き、2007年3月に阿蘇の俵山で水源涵養林の植樹を行いました。この植樹活動は5年計画(植樹を3年、手入れを2年)を予定しており、2回目となる今回の植樹にも多くの社員・家族が参加しました。

今回の植樹では、事前に社内公募により決められた「小さな苗木から育てる100年の森づくり」を標語に行われました。この標語が書かれた第2回涵養植樹の記念標柱も建てられました。

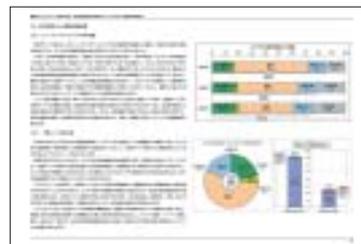


▲植林の実施模様

熊本の水道水は地下水によってまかなわれています。植樹している俵山がある阿蘇一帯は熊本の水がめとも言われており、そこに降った水が浸透し伏流水となり熊本の生活用水となっています。しかし、これらの水は森の減少、田畑の減少で年々少

くなってきています。今回の植樹活動は水にまつわる環境の改善に貢献し理解する良い機会となっています。

また、そのほかの当社グループ事業所内外での緑化の検討も進めており、国際航業株式会社提供の「エコプロファイラー」を用いて緑のたな卸



▲エコプロファイラーの実施写真



▲植林の実施模様

しを実施し、今後の進め方の参考にしています。また、宮城県大和町に新たに建設する当社グループの工場においては、自然と共存する形での工場設計を行う方針です。

Tokyo Electron U.S. Holdings, Inc.の社会貢献 【地域Clean Sweep (清掃活動) を支援】

Clean Sweepは、年に一度オースチン美化協会が主催し、地域の全住民が参加して街をきれいにすることを目的に行われています。Tokyo Electron U.S. Holdings, Inc. (以下 TEL USHD)は、4年以上にわたって近隣の他社や地域コミュニティと協働し、きれいな街づくりをサポートしています。



清掃活動の参加者 ▶

リサイクルボックス



【社員もリサイクル活動を推進】

TEL USHDでは、社員一人ひとりが、4R's (Recycle: リサイクル, Reduce: 削減, Reuse: 再利用, Rebuy: 再購入)を掲げ、環境保全を行っています。電話帳、電池や携帯電話など各家庭で出た廃棄物も、会社に持参しリサイクルを行っています。2006年度には、これらのリサイクルにより、樹木230本分、石油5,100ガロン分(約19,305リットル)、廃棄物処分用の埋め立て地1,200立方メートル相当がセーブされたこととなります。

ステークホルダーからのご意見

環境・社会報告書2006および東京エレクトロングループの事業内容について、熊本県庁 小野上典明様よりご意見をいただきました。

熊本県商工観光労働部
企業立地課 課長

小野上 典明氏



(1) 環境・社会報告書の感想

「環境・社会報告書2006」を拝読し、御社のCSR(企業の社会的責任)としての環境・安全に関する真剣な取り組みが伝わってきました。

本報告書では、EHS活動とともに、コーポレート・ガバナンス体制の強化やコンプライアンスの遵守に関する取り組みについても触れてあることに好感が持てます。

また、全体的にわかりやすい表現が使われていることや的確に注釈をつけられていることなどにより、技術的に詳しくない方々にとっても理解しやすい内容になっていると感じました。

(2) EHS活動に関する感想

御社が2006年4月に策定された、グループの価値観および行動規範となる「TELバリュー」のなかでも、「安全と健康および地球環境への配慮を最優先に考えます。」と明言されており、また、会長の東様、社長の佐藤様のコミットメントからも、御社のEHS活動に関する一貫した理念を読み取ることができます。

報告書の中では数値化による検証がなされており、さらに「製品」「物流」「取引先」「事業所」におけるそれぞれの取り組み内容も詳細に記述されていることから、理念に基づく具体的な活動内容およびその検証が充分なされていると感じました。

目標未達成の項目などが、今後どのように改善されていくのかを、次回以降の報告書で拝見させていただきたいと考えております。

(3) 熊本県から見た東京エレクトロンの印象

熊本県では「熊本セミコンダクタ・フォレスト構想」を策定し、世界のIT産業の拠点化を目指していますが、東京エレクトロン九州株式会社様には、中核企業として、その実現に向けた最も重要な牽引力の一つとなっただけであり、心より感謝しております。

また、「環境・社会報告書2006」に紹介されておりますが、熊本・合志事業所では水使用量削減に熱心に取り組み、財団法人肥後の水資源愛護基金から「肥後の水資源愛護賞」を受賞されているなど、御社に対しましては、日頃から環境面においても積極的に取り組まれているという印象を持っております。

(4) 東京エレクトロンへの要望・期待など

熊本・合志事業所での水使用量削減のための活動のような、事業所ごとの具体的な取り組みや成果について、様々な機会を通じてアピールしていただくことで、御社の先進的な取り組みが、御社内のみならず様々な企業に広がっていくことを期待しています。

本県では、資源の有限性を認識した循環型の社会づくり、また、熊本の豊かな自然と共生した環境づくりを目指しています。御社の積極的なEHS活動は、このような本県の施策とも合致した取り組みであり、今後も引き続き継続していただくことを願っております。

ご意見を受けて

忌憚のないご意見をありがとうございました。東京エレクトロン九州では、「最高の環境から世界最高の製品を」をスローガンとしております。

熊本・合志・大津事業所のある熊本県の豊かな自然を守りながら、世界最高の製品をつくりだし、引き続き地域社会にも貢献できるよう活動を進めていきたいと考えております。

東京エレクトロン九州株式会社
代表取締役社長 三浦 昭